２章　海外実演団体運営状況調査

2章　海外実演団体運営状況調査

バレエは国際的な芸術であり、海外と日本のバレエ団が課題を共有することが多く、海外のバレエ団の運営事例は、日本のバレエ団運営にも非常に参考となる。本調査では、海外実演団体運営に関する時事的な話題や重要なトピックスをレポートにまとめ、日本のバレエ団運営スタッフに共有することで、バレエ団運営スタッフの育成および日本におけるバレエ団運営改善を図った。

● 実施概要

運営スタッフ向け「海外実演団体運営状況調査」

- レポート発行対象：日本バレエ団連盟会員団体（12団体）の運営スタッフ
- 発行時期：2024年4月～2025年3月、全22回（2週に1回1,800字程度のレポートを発行）
- 調査：昭和音楽大学バレエ研究所
- 調査方法：海外メディアによる報道の抜粋翻訳を中心としてレポートを作成
  （一般紙、一般メディア、業界紙、ウェブメディア等）
- 主な調査内容：海外バレエ団を中心とした実演団体の運営状況・課題・成功例や失敗例、舞台芸術に影響を与えると思われる社会運動、実演団体運営に関わる政府施策、実演団体の労働運動、最新テクノロジーの導入例、一般メディアでも話題になったバレエに関する情報等

● 発行レポート概要

（2025年3月11日時点）

発行日	内容
2024年 4月19日 （第1回）	・『壊れた』バレエダンサーへの治療技術、フットボール界からも注目を浴びる：オーストラリア・バレエ団 Artistic Health Center の事例紹介（オーストラリア）
5月14日 （第2回）	・ネットフリックスはバレエの競合 – 観客がそれを求めている：イングリッシュナショナルバレエ団の事例紹介（英国）
5月28日 （第3回）	・カミラ王妃、ロイヤル・アカデミー・オブ・ダンス（RAD）の新しい後援者に（英国） ・韓国でロシア・バレエ公演が再度中止（韓国） ・オーストラリア・バレエ団、ダンサーの体形に対する評論に反論（オーストラリア）
6月11日 （第4回）	・ビジネスモデル.イノベーション による芸術の維持（要約）前編：カナダの主要な芸術団体であるカルガリー・フィルハーモニー 管弦楽団とアルバータ・バレエ再構成の事例紹介（カナダ）
6月25日 （第5回）	・ビジネスモデル.イノベーション による芸術の維持（要約）後編：カナダの主要な芸術団体であるカルガリー・フィルハーモニー 管弦楽団とアルバータ・バレエ再構成の事例紹介（カナダ）
7月9日 （第6回）	・50人の音楽家がシェイクスピアの仮面を付けてノーザン・バレエのオーケストラ閉鎖に抗議（英国） ・英国国王のバースデー・オナーズリストでウェイン・マクレガー氏がナイトの称号を授与される（英国） ・パリ・オペラ座バレエ団、ジュニアカンパニーを創設（フランス）
7月23日 （第7回）	・「フレンズ」ダンスヨーロッパ263号より：会員制度に関する各国のバレエ団の事例紹介
8月13日 （第8回）	・ダンスが先導するカルチュラル・オリンピアードでの芸術とスポーツの融合
8月27日 （第9回）	・オーストラリア・バレエ団のダンサーたちがストレッチをやめた理由（オーストラリア）
9月10日 （第10回）	・ボリショイ劇場がチケット料金を2倍以上に値上げ（ロシア） ・バレエ学校の男子生徒の不足が若手バレエダンサーに問題を引き起こす：クイーンズランドバレエの事例紹介（オーストラリア）
10月8日 （第11回）	・アメリカン・バレエ・シアター（ABT）のアーティストとAGMA（アメリカ音楽芸術家協会）リーダーシップがストライキ承認を圧倒的多数で可決／ ABT ストライキとダンサーの公正な賃金を求める闘い（米国）
10月22日 （第12回）	・ポワントで活躍する3人のノンバイナリー・バレエダンサー：幅広い身体表現の可能性／内面からの美しさ／パートナリング（パ・ド・ドゥ）における新たな視点
11月13日 （第13回）	・困難迫られる予算に劇場への救済措置なし（英国） ・ロイヤル・バレエ団の振付家:ダンサーはAIを恐れる必要はない（英国）

発行日	内容
11月26日 （第14回）	・クイーンズランドバレエのエグゼクティブ・ディレクターが業界の課題と責任について振り返る（オーストラリア） ・ヴァン・ノートン・リー・コミュニティ・ヘルス・インスティテュートとクィーンズランドバレエ（オーストラリア）
12月10日 （第15回）	・スコッティシュバレエ団によるジェンダー（性別）と年齢を超えたバレエが来年のエジンバラ国際フェスティバルでデビュー（スコットランド） ・マテリアル ワールド：スコティッシュバレエ団によるリサイクルの取り組み（スコットランド）
12月24日 （第16回）	・バレエスター、ウラジーミル・シュクリャーロフ氏がサンクトペテルブルクで建物から転落し死亡（ロシア） ・ダンサーのストライキでパリ・オペラ座の公演が中止（フランス）
2025年 1月7日 （第17回）	・サンフランシスコ・バレエ団の『くるみ割り人形』シーズンが危機に：契約交渉が停滞（米国） ・サンフランシスコ・バレエ、労働組合との新合意でシーズン中断を回避（米国）
1月28日 （第18回）	・ウクライナのダンサー、ヴォロディミル・ラコフ氏が戦死 - 享年30歳 ・完璧なピルエットの裏に隠された科学
2月11日 （第19回）	・ダンスはパーキンソン病患者の気分を高める：カナダ国立バレエ学校「シェアリング・ダンス・パーキンソン」プログラム参加者の追跡調査事例 ・WHO（世界保健機関）ヘルス・エビデンス・ネットワーク（HEN）統合報告書67「芸術が健康とウェルビーイングの向上に果たす役割に関するエビデンスとは？」～世界各国のバレエ団によるパーキンソン患者向けダンスプログラムの紹介
2月25日 （第20回）	・ロイヤル・バレエ・スクール、元生徒との財政的和解に合意（英国） ・ミラノ・スカラ座、フレデリック・オリヴィエを新バレエ団芸術監督に任命（イタリア）
3月11日 （第21回）	・アーンスト・マイズナー氏、オランダ国立バレエ団の新芸術監督に就任（オランダ） ・ダンスにおける相対的エネルギー不足

※第22回まで発行予定